

中瀬 有紀



The runway of Philosophy di Alberta Ferretti | Fall Winter 2012/2013 Collection at Avery Fisher Hall Grand Promenade: Produced, directed and managed by Campbell Bromberg, Principal at UNSCENE PRODUCTIONS, LLC

Mercedes-Benz Fashion Week:ニューヨーク秋冬コレクション2012/2013が2月9日から16日まで開催され、最終日に近づいた2月15日、リンカーンセンター内にあるエイブリー・フィッシャー・ホール内で行われたPhilosophy di Alberta Ferrettiのランウェイを拝見しました。

会場となったエイブリー・フィッシャー・ホールの2階ロビーは、天井高20メートル以上の吹き抜けの空間で、三方を外光が差し込むガラスの壁で囲まれています。モデルたちは1階で控え、観客とカメラが待つ2階ロビーへエスカレーターを使って上がり、目線先方に見える下りエスカレーターまでの約27メートルを歩き、下りエスカレーターで1階に戻ります。

照明デザインは長年のキャリアと実績を積み、ファッション業界から高い信頼を得ているGordon Linkさんです。彼は照明デザイン会社BLT PRODUCTIONS, Bernhard Link Theatrical LLCを設立運営され、その社員であり彼のアシスタントの1人でもある、製図とレンダリングのスペシャリストDiana Kesselschmidtさんにお話を伺いました。

使用器材は、5kWフレネル17台、2kWフレネル4台、1kWフレネル4台です。キーライトは、カメラ台横の約4.5メートル高のトラ

## ファッションと光

スに仕込まれた5kWの2台と全ての1kWと2kW、押さえは2階フロア面より約4メートル高いTier 1に仕込まれた5kW スタンド3台、バックは約8メートル高いTier 2の5kW スタンド15台です。全てバンドア付きで、観客の目に光が入らないよう観客の膝の位置で明かりが切られています。太陽光の影響を大きく受ける会場なので、ショーが近くなると「10分に一度は天気予報を確認していた」とDianaさんは言います。2月15日は朝から小雨が降り、太陽は厚い雲に隠れていました。色温度の高い拡散した太陽光がLEE Filter 201越しのハロゲンと混ざります。「なぜダウザー付きのHMIライトを使用しないのか」という私の質問に、Gordonさんはハロゲンランプの高い安定性とコントロールのしやすさ、またコストを理由に挙げられました。優れた演色性を発揮するのも理由のひとつだと感じます。人間の目とカメラの両者に対してデザインされた明かりは、舞台照明と映像照明の特徴を持ち合わせていました。

Philosophyのランウェイは午後12時半頃に始まり、約10分間の濃密な時間は夢のように過ぎます。モデル達の纏う洋服は、ソフトで均一な明かりの中で輝き、それはまるで美術館の芸術のようでした。